

難病と闘う社会活動家・小沢さん 初の著書

難病と闘いながら歌や講演の活動で全国を回る社会活動家、小沢綾子さん（三十五）＝墨田区＝の初の著書となる詩集「10年前の君へ 筋ジストロフィーと生きる」が発売された。区内の出版社「百年書房」が発行する「すーべにあ文庫」（五百四十円）の第三弾で、今を全力で生きる大切さを訴えている。

（井上幸一）

「今日君は絶望していると思う」。収録された小沢さんの詩は、こんな一節で始まる。筋肉が次第になくなり、身体の自由が奪われる筋ジストロフィーと診断された二十歳の自分に宛てた「伝言」だ。

当時、「十年後に車いす生活になる」と医師に告げられ絶望した。宣告よりは遅かったが、実際、三カ月ほど前から車いすに乗るようになったという。「安心して10年後の君は／君が思っているほどに／悪いものじゃないから」。紡ぎ出された言葉は前向きで、生きる喜びにあふれている。

「ずっと下を向いて生きていくつもりか」と、激しく怒ってくれたりハビリの医師、同じ病気で寝たきりでもメッセージを発信し続けた九州の男性（故

『人生は今、この時だ』と訴え

人）。人との出会いが、「斜に構えていた自分の気持ちを変えてくれた」と、小沢さんは言う。

「今日できることが、できなくなる進行性の病気だからこそ、「人生は今、この時だ」と思うことができる」と小沢さん。会社員で、主婦でもある。

「昔の自分のように、未来が描けない境遇にいる人に、私の言葉が少しでも届けば」と願う。

すーべにあ文庫は、「本当に大切なこと」を十分に読めてしまっ小さな冊子で伝えようと昨夏に創刊。収益は、テーマに関連する団体・施設に寄付される。「10年前の君へ」は全国の書店で注文でき、一冊につき五十円が一般社団法人「日本筋ジストロフィー協会」に贈られる。

二十四日午後七時、出版を記念した小沢さんのトークイベントが台東区寿二の書店「Read E. Writing」（リーディング・ライティング）（東京メトロ銀座線・田原町駅徒歩二分）で開かれる。参加費千円。問い合わせ、申し込みは百年書房＝電03（6666）9594＝へ。

台東で24日、トークイベント



著書「10年前の君へ」を手
に持つ小沢さん＝台東区で